

日本工学院蒲田専門学校	開講年度	2019年度	科目名	ProTools実習 2	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	教材は必要なファイル等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	野田 俊典		実務経験の有無・職種	有・アレンジャー、ProToolsオペレーター	
学習目的					
2000年以降ProToolsをはじめとしたDAWにてオーディオをファイルベースで記録、処理、管理することが一般的になり、音に関わるエンジニアにおいてはPCにてこの一連の作業が出来ることが必須となっている。学生は、国内外で今もっとも広く使われているProToolsを学習しデジタル音響とそれに関わる基礎的な知識を習得することにより、その後の経験を通し音に関わる様々な仕事においてその人それぞれの能力を発揮することが可能である。そして現在はもちろん将来新たな技術革新があった場合でも、より柔軟かつ適切に対応できるような人材の育成を目的とする。					
到達目標					
この科目では、学生がそれぞれのコースに分かれる前にファイルの管理も含めパソコンの使用になれることを最初の目標とする。次にProToolsの基本操作を通しオーディオファイルに関しての知識、例えば量子化ビット数やサンプルレートについて学びデジタル音響について正しく理解することを目標とする。最後に学生がProToolsの基本的な操作を習得することで、専門のコースに別れたあとも違和感なくそれぞれの授業についていけるようになる事を目標とする。					
教育方法等					
授業概要	毎回一人一台のパソコンを使い、必要に応じ教員卓のモニターを見ながら実習する。基本的にはAvidの101レベルの内容で進行する。パソコンの基本から始まり、実習室のシステムを理解したあとProToolsの操作を学習する。トラックボールを使った繊細な操作をはじめロケーションやトランスポートになれストレスのない操作を習得する。ルーティングやプラグインの使用を通し、スタジオのコンソールとの相違点を理解する。				
注意点	毎回ヘッドフォンを持参する。授業に必要なファイル等はサーバーを使い配布する。欠席・遅刻・途中退出は基本的には認めないが急な体調不良などは速やかに申し出ること。授業中の携帯電話の使用や実習室内での飲食は禁止。その他、ほかの学生に迷惑になるような行為はしないように。成績は授業参加度、授業態度によって評価するが授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	100%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	前期復習①		波形編集、基本的なトラブルシューティングetc. この授業について		
2回	前期復習②		テンポ測定、マーカーを入れるコツ、リバーブのかけ方		
3回	声の波形について		ノイズ処理 MIDIデータを使用して音を出す		
4回	録音実習(ラジオCM制作①)		新規セッション～録音まで(Micの位置による音の変化etc.)		
5回	録音実習(ラジオCM制作②)		前回は踏まえつつプレイリストを使用し、3テイク以上録音		
6回	テイクセレクト(ラジオCM制作③)		プレイリストからOKテイクを作る（波形の見方、EDIT）		
7回	BGM(ラジオCM制作④)		ナレーションにBGMをインポートし、バランスをとる		
8回	仕上げとバウンス(ラジオCM制作⑤)		マスターフェーダーについて、バウンス、提出		
9回	Vocalセレクト①		Vo.波形の見方、子音、ブレス、つなぐコツetc.		
10回	Vocalセレクト②		セレクトシートの書き方、実際に1本に繋ぐ、ノイズの消し方etc.		
11回	オートメーション①		編集ウィンドウでのオートメーションを学ぶ		
12回	オートメーション②		ミックスウィンドウでのリアルタイムオートメーションを学ぶ		
13回	マルチトラックのMix①		バランスの取り方を学ぶ		
14回	マルチトラックのMix②		エフェクト、オートメーションでの仕上げ～バウンス		
15回	まとめ		後期全体のまとめ		